インターバンクの声（2017 年 7 月 24 日）

日米の金利の先行き見通しの違いによるドル買い・円売りがしばらく続くかと思われたが、最近の低調な米経済指標やトランプ米政権の政権運営に再び懸念が広がり始めているとあって、既に有効期限切れの材料になってしまったようだ。
週末のロンドン、ニューヨーク市場もさしたる材料がない中、欧州株に続いて米国株も下落して始まり、米国債利回りも低下となり、対円でのドル売りが進んだ。
ECB が年内にも出口戦略に向かうとの見方からユーロ買い・ドル売りになっていることも円買い要因の一つになっている。
円相場の次のチャート上の目標は 110 円前後を指摘する声が多いが、米 10 年債利回りが 2.2%を割り込むようだと円買いに勢いが付く可能性もある。ただ 110 円台ではドル買い需要が多いとの指摘もあり、売り買いの攻防が気になる。
今週は米国発の材料が多く、前半には住宅関連指標の発表が続き、週央には FOMC の開催、週末には第 2 四半期の GDP 速報値の発表もある。今年は円高不安が高まると反転することも多かったが、はたして今週はどうなるのだろうか。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社
お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、 複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。 また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。
本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。